

病害虫発生予察 5 月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

5月の気象表(長野地方気象台発表)

官 署		平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	14.2	18.4	19.4	17.0	12.0	40.5	88.3	97.0	95.3
	平年	15.1	15.5	17.1	23.2	31.5	20.4	69.9	60.8	76.6
松 本	本年	14.4	18.1	19.1	9.5	2.0	54.0	86.8	88.5	97.3
	平年	15.2	15.6	17.0	27.5	39.0	33.5	69.5	62.7	76.5
諏 訪	本年	13.2	16.2	17.8	13.5	6.5	63.5	96.2	84.1	94.3
	平年	14.1	14.7	16.2	34.5	44.1	35.3	66.6	62.6	76.1
軽井沢	本年	10.5	12.8	15.0	24.5	4.0	62.0	88.4	82.5	99.0
	平年	11.0	11.5	12.9	29.6	43.8	37.3	63.5	57.2	70.6
飯 田	本年	14.7	16.9	18.9	10.0	24.5	95.0	81.8	71.9	96.0
	平年	15.5	16.1	17.5	50.1	62.5	45.9	62.3	58.5	73.5

天気は数日の周期で変化したが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。このため、日照時間はかなり多くなり、気温は高くなった。

1 麦

(1) 生育概況

大麦の生育は、平年に比べて3日程度進んでいる。小麦の生育はほぼ平年並みとなっている。

(2) 病害虫の発生状況

1) 麦類赤かび病

6月上旬現在で、巡回調査ほ場では、赤かび病の発生は認められなかった。

2) さび病

北信地域、南信地域の一部ほ場を除き、発生は平年に比べて少ない傾向であった。

3) うどんこ病

平年に比べ発生時期は早く、平均病斑面積歩合及び発生地点率はやや多く、中南信地域で発生が目立った。

4) コムギ縮萎縮病、コムギ萎縮病(ムギ類萎縮病)

本年の発生は、昨年と比べてやや多く、新たに確認されたほ場もあった。

2 水 稻

(1) 病害虫の発生状況

1) 育苗期の細菌性病害

全般に平年並の発生であった。

2) 苗立枯病

全般に平年並の発生であった。

3) ばか苗病

育苗期は一部で発生が目立ったが、全般に平年並の発生であった。

4) ニカメイチュウ

小布施町におけるフェロモントラップへの誘殺は、6月2半旬まで確認されていない。近年、県内ではニカメイチュウの発生は少ない傾向で推移している。

第1表 ニカメイチュウ越冬世代成虫のフェロモントラップ誘殺消長(小布施町)

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6	6・1	6・2
平成1年～ 30年の平均	0.5	0.4	2.6	8.2	21.7	36.6	77.2	119.8
平 年	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.3	0.3
本 年	0	0	0	0	0	0	0	0

*平年：2009～2018年(過去10年)の平均

5) イネミズゾウムシ

アメダス気温データから算出した越冬地からの半数脱出推定時期は、平年に比べて木曾福島で2日早く、上田、飯田、松本、長野では1～2日遅かった。6月上旬の越冬成虫発生量はほぼ平年並みであったが、一部のほ場で発生が多く、被害度が高かった。

第2表 イネミズゾウムシ越冬後成虫の越冬地からの半数脱出推定時期

	上田	諏訪	飯田	木曾福島	松本	長野
平 年	5/10	5/21	5/9	5/20	5/10	5/11
本 年	5/12	5/21	5/10	5/18	5/12	5/13
平年差	2日	0日	1日	-2日	2日	2日

*平年は2009～2018年(過去10年)の平均

3 りんご

(1) 生育概況

6月1日の果実肥大は、平年と比べ「ふじ」の縦径を除き小さい傾向である。

第1表 りんごの果実肥大状況(須坂市:果樹試験場) 単位:mm、%

調査日	つがる						ふじ									
	縦径		横径		縦径		横径		縦径		横径					
	本年	比	前年	前年	本年	比	前年	前年	本年	比	前年	前年				
6/1	26.2	94	28.0	34.6	25.9	91	28.5	36.4	27.4	101	27.3	34.8	25.4	96	26.5	36.3

平年は2004~2018年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

1) うどんこ病

平年と比べると芽しぶの発生は少なかった。

2) 斑点落葉病

巡回調査では発生はみられなかった。

3) 黒星病

平年と比べ発生は少なく経過した。

なお、子のう胞子の補足数調査では4月下旬から5月上旬がピークであった。

第2表 黒星病子のう胞子の補足数(須坂市:果樹試験場)

	4月						5月						
	半旬	1~5	5~10	10~15	15~19	19~25	25~30	4/30~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~31
前年		0	23	1254	2041	0	1876	1678	6331	603	153	0	0
本年		0	0	5	0	158	10814	2985	701	911	0	953	377

注1) 数値は吸引式胞子採集器による18×18mmあたりの補足数

注2) 供試する落葉の被害程度が異なっているため、補足数は前年の値とは単純に比較できない

4) 赤星病

6月上旬の巡回調査では、中信地区で散見された。

5) 腐らん病

胴腐らん、枝腐らんの発生が多く、園地でみられた。

6) ハダニ類

リンゴハダニは、越冬卵がみられた園を中心にみられた。ナミハダニも一部で寄生がみられた。

7) キンモンホソガ

フェロモントラップで多く誘殺された地域もあったが、果樹試験場(県発生予察ほ)の誘殺は平年並みであり、果そう葉の寄生もみられなかった。

第2表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長(須坂市:果樹試験場)

月・半旬	5・1	2	3	4	5	6
平年	5.0	0.5	0.8	0.5	1.2	11.1
本年	0	0	1	0	1	3

平年は2009~2018の平均値

8) ハマキムシ類

寄生がみられたほ場もあったが、全般に平年並の発生と推測された。

9) ナシヒメシンクイ

巡回調査では寄生はみられなかった。全般に平年並の発生と推測された。

10) アブラムシ類

5月上旬にはリンゴコブアブラムシの寄生が多くみられた。その後はユキヤナギアブラムシの寄生が新梢先端にみられた。

4 なし

(1) 生育概況

6月1日までの果実肥大は、二十世紀、豊水とも平年と比べ小さい傾向である。

第1表 なしの果実肥大状況(高森町:南信農業試験場) 単位:mm

品 種	区分	5月15日		6月1日		6月15日		7月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	15.6	17.1	25.7	25.5	32.2	30.7	38.3	35.5
	前年	20.6	20.5	29.6	28.0	36.7	35.1	44.1	40.4
	本年	12.0	12.1	23.9	22.5				
幸 水	平年	14.5	14.0	25.1	22.1	32.5	27.8	40.6	33.8
	前年	18.2	15.8	29.5	25.1	37.6	31.9	45.4	37.7
	本年	12.4	10.9	26.2	22.6				
豊 水	平年	17.3	18.2	26.8	25.8	33.3	31.3	40.3	37.1
	前年	21.8	20.6	31.4	28.8	39.6	36.4	46.7	41.8
	本年	12.2	11.4	24.2	21.4				

平年は1990~2010年の平均値(幸水は長果枝と短果枝の平均)

(2) 病害虫の発生状況

1) 黒斑病

巡回調査ほの一部で発生がみられた。

第2表 越冬病斑上の胞子形成度(高森町:南信農業試験場)

半旬	4月						5月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平年	16.4	11.7	19.8	20.7	26.9	27.5	26.4	26.8	40.3	31.1	34.5	42.3
前年	21.7	16.7	26.7	25.0	16.7	43.3	58.3	53.3	55.0	60.0	88.3	78.3
本年	-	6.7	25.0	11.7	61.7	13.3	33.3	6.7	58.3	51.7	33.3	31.7

値100の場合は1個の病斑に100個以上胞子を形成している状態

平年は過去10年平均値

第3表 アルタナリア属菌の分生孢子捕捉数（高森町：南信農業試験場）

半旬	5月						6月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平年	1.9	2.8	5.5	5.8	4.9	9.5	12.2	18.3	36.4	26.8	28.0	16.4
前年	2	2	2	4	3	2	10	9	34	23	23	16
本年	1	1	1	0	0	1	2	6				

18mm×18mm当たりの孢子数（個） 平年は過去10年の平均値

第4表 ナシ黒斑病、果実の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布）

	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	0.0	0.1	0.2	1.3	3.1	13.1
前年	0.0	0.0	0.0	1.7	8.7	26.5
本年	0.0	0.0	0.0	0.0		

平年は過去10年平均値

第5表 ナシ黒斑病、新梢葉の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布樹）

	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	0.1	0.2	1.2	3.6	7.5	15.9
前年	0.0	0.0	1.2	9.2	24.6	52.8
本年	0.0	0.0	0.0	0.0		

平年は過去10年平均値

2) 黒星病

県予察ほ、巡回調査ほ場の一部で発生がみられた。

第6表 ナシ黒星病菌子のう孢子飛散消長（高森町：南信農業試験場）

半旬	4月						5月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平年	11	200	812	1867	6053	2948	4156	4384	2241	650	293	194
前年	0	656	1793	6291	30181	5656	29442	20762	2972	4	114	39
本年	0	1	5	3	134	1295	770	3728	2486	246	120	0

平年は過去10年平均値

第7表 ナシ黒星病、果実の発病（高森町：南信農業試験場）

	4月		5月		6月		
	25日	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	-	12.6	31.2	40.2	46.0	50.2	58.2
前年	4.8	32.8	51.1	66.0	83.8	87.3	88.8
本年	-	0.0	2.4	4.3	10.9		

「幸水」殺菌剤無散布樹で調査 平年は過去10年平均値

第8表 ナシ黒星病、果そう葉の発病（高森町：南信農業試験場）

	4月		5月		6月		
	25日	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	-	1.4	5.9	23.4	41.9	54.7	63.2
前年	0.0	3.9	22.3	62.9	89.6	86.1	88.0
本年	0.0	0.0	0.7	2.7	14.8		

「幸水」殺菌剤無散布樹で調査 平年は過去10年平均値

3) 赤星病

巡回調査では発生はみられなかった。

4) ハダニ類

巡回調査ではナミハダニの果そう葉への寄生は認められなかった。
新梢中位葉へのナミハダニ寄生はみられた。

5) リンゴコカクモンハマキ

南信農業試験場では誘殺のピークは判然としなかった。

第9表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	5・1	2	3	4	5	6	6・1	2
平年	0	0	0.1	0.2	1.1	0.9	1.8	1.4
前年	0	0	0	0	0	2.5	2.5	0.5
本年	0	0	0	0	0	0	0.5	1

6) ナシヒメシクイ

南信農業試験場での越冬世代成虫の発生盛期は4月第5半旬であった。第1世代成虫が6月第1半旬から捕獲されている。巡回調査ほでは、芯折れは認められなかった。

第10表 ナシハメシクイのフェロモントラップ誘殺消長(高森町:南信農業試験場)

月・半旬	4・4	5	6	5・1	2	3	4	5	6	6・1	2
平年	3.1	5.7	4.9	6.2	3.2	1.3	1.5	0.6	0.3	0.3	0.7
前年	4.5	8.5	2	2	0	0	0	0	0.5	2	2.5
本年	3	4	2	2.5	0.5	0.5	0	0	0	0.5	0

平年は過去10年平均値

7) カメムシ類

南信農業試験場でのカメムシ類の捕獲は少ない。山林等での捕獲量は前年よりは少なかったが、平年よりも多い。

第11表 カメムシ類の誘殺状況(高森町:南信農業試験場)

月・半旬		5・1	2	3	4	5	6	6・1	2
クサギ	平年	0.1	0.1	0	0	0	0	0.2	0.1
	前年	0	0	0	0	0	0	2	0
	本年	0	0	0	0	0	0	0	0
チャバネ	平年	0	0.5	0	0.7	0.9	0.7	1.4	1.4
	前年	0	0	0	5	2	5	1	0
	本年	0	0	0	0	1	0	0	1

5 もも

(1) 生育概況

6月8日までの果実肥大は、あかつきび川中島白桃とも平年より大きい傾向である。

第1表 ももの生育状況(須坂市:果樹試験場)

品種	月日	縦径(mm)			横径(mm)			側径(mm)			指数		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
あかつき	6/1	36.2	42.3	34.9	30.3	37.6	30.2	25.7	32.5	25.9	10.2	14.4	10.1
川中島	6/8	44.2	48.4	41.2	40.1	45.2	37.6	34.7	41.1	33.5	16.6	20.9	14.9
白桃	6/1	31.9	38.7	31.5	27.3	33.7	27.0	22.4	29.7	22.7	8.0	12.3	8.1
	6/8	39.5	47.0	38.8	36.3	43.4	35.6	30.7	37.8	30.5	13.3	19.1	13.1

平年値:あかつき(2011年~2018年の平均)川中島白桃(1985年~2018年の平均)

指数=縦径×(横径+側径)÷2÷100

(2) 病害虫の発生状況

1) せん孔細菌病

発病葉が多くみられる地域もあるが、全体的には平年並みの発生であった。

2) 縮葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

3) ハダニ類

巡回調査では、寄生がみられなかった。

4) モモハモグリガ

巡回調査では、被害がみられなかった。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長(須坂市:果樹試験場)

月・半旬	5・1	2	3	4	5	6
平年	31.5	6.4	5.2	3.5	3.7	23.0
前年	15	2	1	1	2	15
本年	0	0	0	0	2	3

平年値は2009~2018年の平均

5) アブラムシ類

平年並の発生であると推測された。

6) カメムシ類

巡回調査では一部園地で被害果実はみられず、平年並みの初声であると推測された。

第3表 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺消長(須坂市井上)

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
2016年	-	0	0	0	1	0
2017年	0	0	0	0	1	3
2018年	4	0	1	2	4	3
2019年	0	0	1	0	4	0

6 ぶどう

(1) 生育概況

満開期は、平年より1日早かった。

第1表 ぶどうの生育状況(須坂市:果樹試験場)

品種名	区分	発芽期	展葉期	開花期	満開期	落花期
巨峰	平年	4/25	4/30	6/8	6/11	6/14
	前年	4/22	4/26	6/3	6/5	6/8
	本年	4/25	5/4	6/7	6/10	6/12

平年値は1981年~2010年の平均

(2) 病害虫の発生状況

1) 灰色かび病

巡回調査では、発生はみられなかった。

2) ベと病

巡回調査では、発生はみられなかった。

7 野菜・花き

(1) 生育概況

5月の気温は、上旬に平年に比べ低いところがあったものの、中旬以降は平年に比べて高くなったところが多かった。このため、作物の生育は平年並であった。

(2) 病害虫の発生状況

1) きゅうりの病害

巡回調査では、北信地域の一部施設（半促成）栽培ほ場でうどんこ病の発生がみられた。

2) キャベツ、ブロッコリー、はくさいの病害

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

3) レタスの病害

巡回調査では、中信地域の一部ほ場ですそ枯病の発生がみられた。

4) タマネギの病害

巡回調査では、中信地域の一部ほ場でべと病の発生がみられた。

5) アザミウマ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域の施設（半促成）栽培のトマト、中南信地域の施設（半促成）栽培のきゅうり及び中南信地域のねぎの一部ほ場において寄生がみられた。

青色粘着トラップによる飛来消長調査では、富士見町の地区発生予察ほで5月第5半旬に急増した（第1表）。

第1表 青色粘着トラップによるアザミウマ類の飛来消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
上田市菅平高原(地区発生予察ほ)	0	0	0	2	1	2
富士見町(地区発生予察ほ)	1	0	0	0	23	7
塩尻市洗馬(地区発生予察ほ)	0	0	1	0	2	7
長野市(地区発生予察ほ)	0	0	2	1	1	1

6) アブラムシ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地区の施設（半促成）栽培きゅうり及びすいかほ場で

寄生がみられた。

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長調査では、小諸市の県発生予察ほ、塩尻市洗馬及び富士見町の地区発生予察ほで5月第5半旬に急増した（第2表）。

第2表 黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市宗賀(野菜花き試験場)	0	1	3	2	8	13
小諸市山浦(県発生予察ほ)	13	7	11	6	55	20
上田市菅平高原(地区発生予察ほ)	0	1	5	4	8	11
富士見町(地区発生予察ほ)	3	7	8	6	117	72
塩尻市洗馬(地区発生予察ほ)	2	0	9	9	35	25
長野市(地区発生予察ほ)	1	2	7	3	1	8

7) ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、中信地域のねぎの一部ほ場で寄生がみられた。

8) コナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、東信及び中信地域のキャベツ、東信地域のブロッコリーの一部ほ場で寄生がみられた。

フェロモントラップによる誘殺調査では、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）、長野市及び朝日の地区発生予察ほ、原村の防除適期決定ほでは平年並であったが、塩尻市（野菜花き試験場内）及び上田市の地区発生予察ほでは平年に比べてかなり少ない傾向となった（第3表）。

第3表 フェロモントラップによるコナガ誘殺消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市(野菜花き試験場)	2	1	6	6	2	1
小諸市(同 佐久支場)	10	17	10	5	8	11
東筑摩郡朝日村(地区発生予察ほ)	18	18	31	41	25	44
長野市(地区発生予察ほ)	5	3	13	13	18	29
上田市(地区発生予察ほ)	0	0	0	1	0	0
諏訪郡原村(防除適期決定ほ)	9	6	12	16	19	20

9) オオタバコガ

巡回調査では、被害は確認されなかった。

越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数は、野菜花き試験場（塩尻市）、同 佐久支場（小諸市）、農業試験場（須坂市）とも平年並であったが、豊丘村の防除適期決定までは5月第6半旬に急増した（第4表）。

第4表 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市（野菜花き試験場）	1	0	1	0	3	1
小諸市（同 佐久支場）	1	0	1	2	1	0
須坂市（農業試験場）	0	0	0	1	0	1
豊丘村（防除適期決定ほ）	1	3	3	5	1	36

10) ヨトウガ類

ヨトウガ

フェロモントラップによる誘殺調査では野菜花き試験場内（塩尻市）及び農業試験場（須坂市）とともに5月第4半旬以降急増した（第5表）。

ハスモンヨトウ

フェロモントラップによる誘殺調査では農業試験場（須坂市）及び上田市の地区発生予察ほでは、誘殺が確認されなかったが、野菜花き試験場内（塩尻市）では5月第4半旬以降誘殺が確認された。（第6表）。

シロイチモジヨトウ

フェロモントラップによる誘殺調査では野菜花き試験場内（塩尻市）及び長野市の地区発生予察ほともに5月第3半旬に初誘殺された（第7表）。

第5表 フェロモントラップによるヨトウガ誘殺消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市（野菜花き試験場）	1	1	2	9	15	22
須坂市（農業試験場）	8	1	3	10	10	11

第6表 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市（野菜花き試験場）	—	—	0	2	1	1
須坂市（農業試験場）	0	0	0	0	0	0
上田市（地区発生予察ほ）	0	0	0	0	0	0

第7表 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺消長

月・半旬	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6
塩尻市（野菜花き試験場）	0	0	1	1	0	2
長野市（地区発生予察ほ）	0	0	1	0	1	1

11) ハダニ類

巡回調査では、南信地区の施設（半促成）栽培きゅうりほ場で寄生がみられた。